

# 中津川市地域医療実習 感想文

久留米大学 1年生

今回の実習に対して、総括として感想文の記載をお願いいたします。文量はおまかせします。中津川市地域総合医療センターのHPでご紹介させていただく予定です。

完成しましたら [med-cen@city.nakatsugawa.gifu.jp](mailto:med-cen@city.nakatsugawa.gifu.jp) 宛に添付して送ってください。

今回の実習を通じて、最も強く感じたのは「医療の敷居を下げることの大切さ」である。発達支援センターでは、診察室に入ることが難しい子どものために廊下で診察を行ったり、その子が好きなキャラクターを身につけて警戒心を和らげるなど、様々な工夫が病院でされているというお話を聞いた。また、医師が地域の多職種会議に参加したり地域住民向けに講座を開いたりすることで、患者・医師・保健・福祉が連携しやすい雰囲気生まれることも学んだ。

医療以外の支えの重要性についても、実習を通じて実感した。発達支援センターでの個別指導により、人見知りがなくなったり笑顔が増えたりと大きく変化する利用者もあり、生活に直接寄り添う支援の力を感じた。また、免許を返納した高齢者の通院・買い物を支えるバス送迎サービスや、こたつ出し・雪かきなど日常の小さな困りごとに対応する「つながり隊」のような行政の取り組みも印象的だった。「つながり隊」では定額制を採用することで、利用者が遠慮なくサービスを頼める工夫がされていた。地域包括支援センターでは、ケアマネジャーが相談者の希望を受けて必要な条件を整理し、サービス提供を調整していた。医師として患者の様々な相談に応えられるよう、自分もケアマネジャーの資格取得を検討したいと思った。

医師の働き方についても、視野が広がった。これまでは病院勤務か開業かという漠然としたイメージしかなかったが、蛭川診療所の榎間先生のように、大学病院を早期退職し複数の病院・診療所で掛け持ちをしながら障がい者の就労支援事業を展開するという選択肢もあることを知り、将来の働き方についてより具体的に考えるきっかけになった。

阿木診療所と蛭川診療所では2人の先生の診察を見学し、最終日には実際に患者さんへの医療面接を経験させていただいた。実際にやってみることで、患者の話聞く中で大切なこと・難しいことが具体的に見えてきた。現在は基礎医学の勉強が中心で臨床のイメージが持ちにくく、辛いと感じることも多いが、今回出会った患者さんのことを忘れず、学んでいることが臨床にどう活か

されるかを意識しながら日々の勉強に取り組んでいきたい。モチベーションの面でも、今回の実習は非常に貴重な時間となった。